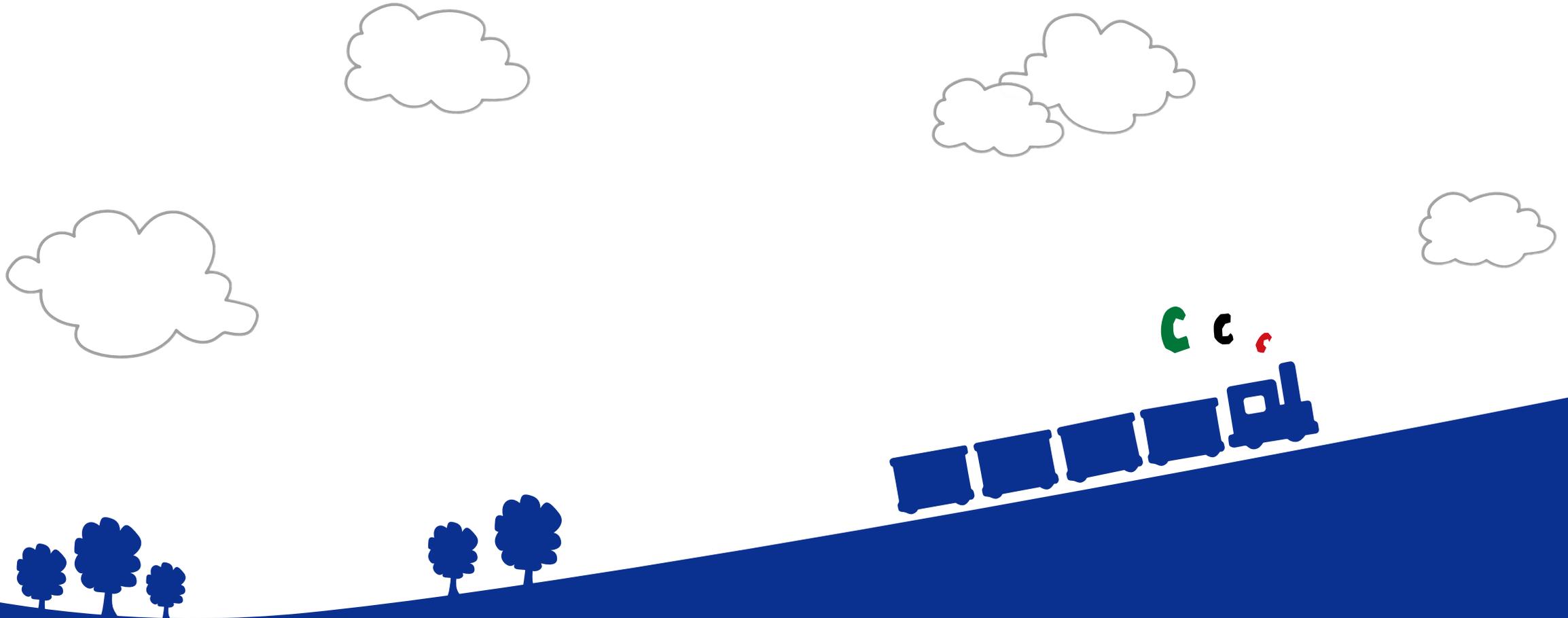


2018



 **愛知淑徳大学**
コミュニティ・コラボレーションセンター

長久手キャンパス
〒480-1197
愛知県長久手市片平二丁目9
TEL (0561) 62-4111(代表)

星が丘キャンパス
〒464-8671
名古屋市千種区桜が丘 23
TEL (052) 781-1151(代表)

CCC

活動報告書

愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター



2018年度CCC活動報告書
発行：愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター



1 コラボメッセ

2018年12月9日(日)に行政機関、企業、NPOなど(以下、CCC連携団体)のみならずと学生が一堂に会する第4回「コラボメッセ」をおこないました。今年是他大学学生団体にもご参加いただき、これまでのブース交流の幅が広が

りました。前半の活動発表交流、後半のパネルディスカッションを通して、学生たちは自分たちの活動をどう伝えるかを再確認することができました。また、地域と学生が協働する意義を改めて考える機会となりました。

第1部 活動発表



本学学生団体26団体、CCC連携団体27団体。そして、愛知学院大学国際子ども支援ボランティア(HSVs)、FIWC東海委員会(愛知淑徳大学&南山大学)、同朋大学心身障害福祉研究会、名古屋学院大学ボラセンCWクラブあすなろの4組の学生団体が活動発表に参加しました。そこでは、各団体がお互いの活動紹介をおこないながら交流を図りました。140人の活動する学生たちが各ブースで報告をおこない、初めてボランティアの話を聞く一般参加の学生たちも多くの刺激を受けたようでした。

第2部 パネルディスカッション



「行政、企業、NPO&大学。コラボして今…」をテーマに行政職員、東邦ガス(株)、NPO法人楽歩(らふ)、大学のメンバーでディスカッションをおこないました。司会は本学学生の伊藤奈央人さん。各メンバーの言葉を引き出した上で、協働で活動する苦労と課題を共有し、「困難があっても社会にとっては協働事業をおこなうことが大切である」というメッセージを参加者に伝える内容となりました。

第3部

CCC@homeライブ



カフェブースを担当してくださったNPO法人楽歩、(株)フォルツァ、社会福祉法人ポレポレの方々も一緒に、全員で大合唱をおこないました。昨年に引き続き、選曲は「ボクノート(スキマスイッチ)」。CCCが開設した年に流行した曲です。ギター&カホンの生演奏とダンスも交えながら、会場が一体となるあたたかい時間を過ごしました。

参加した他大学学生の声

同朋大学 心身障害福祉研究会

このようなボランティア団体同士の交流イベントには初参加でしたので緊張しながら参加しました。他団体の方とお話する中で、知的障がいがある方への支援方法を改めて見つめ直す機会になりました。

愛知学院大学

国際子ども支援ボランティア

カンボジアとラオスの子どもたちを対象に教育支援をおこなっています。コラボメッセを通じて、様々な方々に自分たちの活動を知っていただいて、支援の輪が広がればと思いました。

連携団体様の声

NPO法人楽歩 大原 様

NPO法人楽歩には多くの学生さんが来てくれます。子ども食堂のお手伝いや楽歩コーヒーを広める活動をおこなってくれています。学生さんの前向きな姿勢や行動力には、驚かされるばかり。思いもよらないアイデアが出てくるし、一緒に楽しく活動することで元気をもらいます。協働することで生まれる効果をみなさんにもお伝えできたら嬉しいです。



ご協力いただいた CCC連携団体のみなさま



愛知県被災者支援センター、アジア車いす交流センター、アジア保健研修所、アスクネット、オイスカ中部日本研修センター、下呂市小坂振興事務所、こどもNPO、スペシャルオリンピックス日本・愛知、瀬戸信用金庫、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ、名古屋市千種区社会福祉協議会、デンソー、東邦ガス ガスエネルギー館、長久手市たつせがある課、なごや環境大学、名古屋国際センター、名古屋市市民活動推進センター、名古屋市障害者スポーツセンター、名古屋市総務局大学政策室、西尾市佐久島振興課、日進市市民協働課、日本介助犬協会、フォルツァ、ぶくぶくばーん、ボラみみより情報局、ボランティアサークルJDRトヨタ(トヨタ自動車)、ポレポレ、名古屋市名東区社会福祉協議会、楽歩、レスキューストックヤード

愛知学院大学国際子ども支援ボランティア、FIWC東海委員会、同朋大学心身障害福祉研究会、名古屋学院大学ボラセンCWクラブあすなろ

※あいうえお順、法人名省略

2 2018年度

コミュニティ・コラボレーションセンター 活動実績

●利用状況

CCC登録者数 2,787人
利用者数 延べ17,041人

登録利用者 ボランティア活動に参加するためのCCCへの登録情報取得、活動の相談、ランチタイム企画参加、ミーティングなどで来室する学生
参加者 CCC連携団体から募集があったボランティア活動にCCCを通して申込み・参加した学生、または学生団体などの自主活動に参加した学生

ボランティアへの参加者数* (分野別)

年度	国際交流・協力	青少年育成	まちづくり	福祉	環境	震災支援・防災	その他	学生団体	計
2018	108	171	25	256	99	23	89	1,584	2,355
2017	144	234	163	293	150	22	61	1,039	2,106
2016	99	228	162	339	210	-	76	-	1,114

●産学官連携事業 (抜粋)

- 瀬戸信用金庫との連携
有志学生が瀬戸市内の保育園での「すみれの苗贈呈式」とレクリエーションの企画・運営
- 東邦ガス(株)との連携
学生団体「エネAS」が、ガスエネルギー館にてイベント企画・運営
- ボランティアサークルJDRトヨタ(トヨタ自動車(株))との連携
有志学生との共同企画として、児童養護施設の子どもたちを本学長久手キャンパスの招いての交流会を実施
- 愛知県との連携
かがやけ☆あいちサステイナ研究所の研究者として本学学生が参加
- 愛知県警察、長久手市との連携
学生団体「tASUkeai」が、防犯体験学習イベントを企画・運営
- NPO法人楽歩との連携
有志学生が「ぼらマッチ!なごや」にてカフェを企画・運営
学生団体「キズナ日和」が、利用者の方々と共に楽歩の活動に参加

●受託事業 (抜粋)

- 男女共同参画パートナーシップ事業 (委託者:日進市)
- 子ども大学につしん (委託者:日進市)
- グリーンマップ作成プロジェクト (委託者:長久手市)
- 西尾南部ベイエリア体験プログラム開発プロジェクト (委託者:西尾市)
- 長久手市大学連携推進ビジョン4U (委託者:長久手市)

●助成金交付事業 (抜粋)

- 日進市福祉課より助成
学生団体「ちゃっちゃん」による障がいのある子とない子の交流イベントの企画・運営
- 国際ソロプチミスト名古屋一栄より助成
学生団体「ボランティアサークルあじゅあす」による障がい者や高齢者対象のイベントの企画・運営



●メディア掲載情報 (抜粋)

発行日	掲載紙	掲載内容
2018年5月25日	中部経済新聞	公益社団法人スペシャルオリンピックス日本・愛知と一緒に有志学生が知的障がい者とのトーチランを企画・運営
2018年7月16日	中日新聞	「キズナプロジェクトA」履修生がNPO法人楽歩の障がい者の方と一緒にマルシェを運営
2018年9月21日	中日新聞(三河版)	学生団体「Step In 佐久島」が島民と一緒にサツマイモ収穫
2018年10月	堀川まちづくりの会機関紙「ワカリホ」vol.8	本学学生が「ゴンドラと堀川水辺を守る会」をレポート
2018年12月12日	中日新聞	学生団体「Team みその」が御園通商店街での盛り上げ行事を開催
2019年3月1日	ボランティア情報誌ポラみみ	東日本大震災から8年〜今、私たちにできること〜学生団体「ういるく」が活動紹介
2019年3月6日	中日新聞(なごや東版)	瀬戸信用金庫と有志学生が瀬戸市内の保育園で「すみれの苗贈呈式」とレクリエーションを企画・運営
2019年3月7日	中日新聞	学生団体「ユニコま Plus +」がユニクロ、ママのリフォーム協力のもと、障がいに合わせたリメイク服を作成
2019年3月21日	三河新報	佐久島で収穫したサツマイモを芋焼酎商品化(学生団体「Step In 佐久島」参加)
2019年3月21日	愛三時報	佐久島で収穫したサツマイモを芋焼酎商品化(学生団体「Step In 佐久島」参加)



表彰・認定

●学生団体「名古屋コーチンもりあげ隊」感謝状受領

名古屋コーチンの普及活動をしている「名古屋コーチンもりあげ隊」が団体設立5周年の節目を迎えるにあたり、長年にわたりその活動に尽力したことが評価され、一般社団法人名古屋コーチン協会より感謝状を受領しました。



●学生団体「エコのつぼみ」「あいち“言の葉”キャラバン」キャラバン隊を受嘱

2006年より継続的に竹林整備などの環境活動をおこなってきた「エコのつぼみ」が、第70回全国植樹祭愛知県実行委員会より「あいち“言の葉”キャラバン」キャラバン隊を受嘱しました。



3 センターの取り組み

3.1 カリキュラム

地域へ、未来へ、走り出す。
自ら考え行動する力を育みます。

CCCでは、地域と連携して取り組む社会貢献活動に、学生が段階的にチャレンジできるよう「CCC開設科目」を開講しています。ボランティア活動の基礎や地域の方々と協働する上で必要となるマナーや支援方法を学ぶ「知識系科目」、仲間と一緒に活動を起こす際に必要となる手法や考え方を学ぶ「スキル系科目」、社会が抱える問題の解決に向けて実際にアクションを起こすプロジェクト型の「実践系科目」など、多様な科目構成で実際の活動や将来に役立つ知識やスキルを修得します。



2018年度CCC開設科目 一覧

●知識系

CCC スタートアップ講座	沖 直子 先生 小早川 真衣子 先生 高森 順子 先生
ボランティア	榎田 勝利 先生 沖 直子 先生
障がい者支援ボランティア	荒賀 博志 先生
まちづくりマーケティング	大塚 英揮 先生 沖 直子 先生

●スキル系

企画立案の基礎	沖 直子 先生 丹羽 幸美 先生 原田 穂高 先生
ファンリレーター養成講座	沖 直子 先生

●実践系

CCCキズナプロジェクトA・B	沖 直子 先生
-----------------	---------



授業報告 「CCCスタートアップ講座」

高森 順子 先生

履修生の声



ボランティアや社会貢献に関心があり、地域に入って「何かやってみたい」と考えている学生に向けて開講している入門科目です。本授業のねらいは、コミュニティに主体的に関わる技法を身に付け、その技法を、具体的な人やできごとを知ることで理解につなげます。

特に学生たちからの反響が高かったのは、写真を通じたワークショップと、学生団体の代表やCCC学生スタッフをつとめる学生たちとの交流でした。写真を使ったワークショップでは、各学生が「わたしの大切なもの」をテーマにレンズ付きフィルムを用いて撮影をして、そこに自分以外の学生たちが思い思いに

この授業の中で一番印象的だったのは、CCC学生団体のお話を聞くことができたことです。団体の活動内容だけでなく、その人個人の人生や考え方について聞くことができ、とても面白かったです。また、自分たちの人生曲線を描いてそれを軸に自分の今までの人生を人に伝えることに挑戦したり、写真を通じて自分以外の人と同じものを見て、多様な考えを持っていることを理解することができました。

健康医療科学部
1年 嶋田 雪未



キャプションをつけていき、教室内で即興的に展示空間をつくりあげていきました。学生たちは、自分の伝えたいことと、他者の受け取り方の違いに気付き、コミュニケーションの難しさと面白さに気付いていきました。また、地域に入って活動をおこなう学生たちとの交流においては、彼らの実践者としての側面だけではなく、大学入学前からのライフストーリーを共有することで、彼らを身近に感じてもらい、「自分も活動できるのではないか」という気持ちを生み出すことにつながりました。



授業報告 「CCCキズナプロジェクトA」

沖 直子 先生

履修生の声



この講義は、学生が地域に出て、実際にアクションを起こしていくプロジェクト型の授業です。学部も学年もバラバラな学生がチームになり、行政機関やNPOなどと連携して自分たちの活動を創っていきます。今年度は、長久手市のNPO法人楽歩と連携しました。学生たちは、楽歩が展開している就労支援事業所やカフェ、さらには田んぼに足を運び、取材をすることで信頼関係を育み、楽歩の方々の「焙煎している珈琲を長久手でブランド化したい」という願いを知り、様々なPR方法を考えました。取材を記事にまとめパンフレットを発行したり、モリコロパークの夏祭りでは、キズナオリジナルブレンドをパッケージ

学年も学部も性格も違うからこそ、それぞれの中に秘めている力を引き出し合って高め合うことができる。これがキズナプロジェクトの一番の魅力だと思います。一人のぼんやりしたアイデアや様々な考えや特技を持つ私たちが一つになった時、最高の形となって実現するのだと実感できる素晴らしい経験となりました。

メディアプロデュース学部
4年 福尾 ちさと



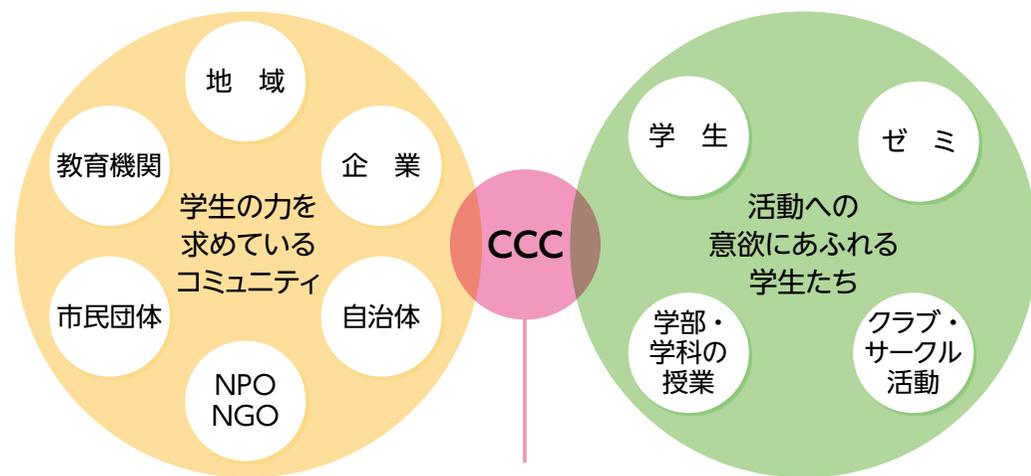
デザインから考えて販売したり(当日は100杯売れました)、Tシャツをデザインしたり、歌を創ったり、大きな絵に夢を描く子ども対象のワークショップを実施したり…溢れるアイデアをどんどん実行していきました。活動経験がなかった学生も夢中で取り組むうちに、地域との協働や主体的なアクションの面白さを実感し、全員一致で授業後も続けようと、学生団体「キズナ日和」を立ち上げました。担当者としても、チームとしての挑戦が、学生一人ひとりの個性の発揮、行動力につながり、授業の枠を超えていく可能性を感じることができました。これからも楽しみです。

3.2 活動サポート

みんなが蒔いた「種」を、大きな「樹」に育てたい。
地域貢献、社会貢献活動をきめ細かくサポートします。

「チャレンジしたい!」と自主活動への意欲が芽生えるきっかけは、個人的な興味・関心、学部・学科の授業、ゼミ活動、クラブ・サークル活動など、学生一人ひとり異なります。活動の目的や内容も多岐にわたっています。そこでCCCは、学生とコミュニティとの出会いをコーディネートし、学生の思いを具体的な活動へと結び付ける橋渡しをしています。

特にCCCを拠点に活動する学生団体には、CCCスタッフが「アドバイザー」として寄り添い、活動を進めていく上で見つかった課題の解決をサポートしています。運営資金をサポートする「チャレンジファンド」(P.14・15参照)のほか、2015年度からは学外の地域団体とのコラボレーションを実現する「コラボメッセ」(P.4・5参照)を年1回実施するなど、支援制度を拡充しました。



学生とコミュニティをつなぎ、
さまざまな地域活動を活性化します

サポートの3つの形

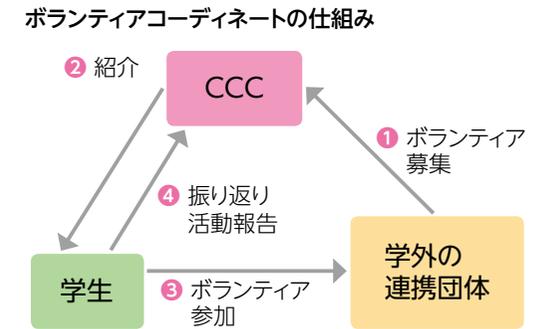
- (1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング 11
- (2) 学生団体などによる自主活動の支援 12・13
- (3) 【学内助成事業】チャレンジファンド 14・15

(1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

自主活動に挑戦する学生の初めの一歩として、ボランティア活動への参加があります。

センターでは、ボランティア募集情報の収集、学生への紹介、学生スタッフらによる窓口相談などを通して、マッチングをおこなっています。

ボランティア募集情報は、センターでの掲示のほか、月に2回、全学生に電子発信しています。活動分野は、国際交流、青少年育成、福祉、環境、まちづくりなど様々です。2018年度は、延べ2,355人が活躍しました。



国際 フィリピンフェスティバル

連携先：中部フィリピン友好協会

このボランティア活動で知ったことは、フィリピンの人たちは地元が大好きだということでした。だからこそ、私たちがその文化を尊敬するべきだと思いました。例えば、このフェスティバルにある歌手の方が参加していたのですが、みなさん本当に楽しそうに歌っていました。私はその光景を見て、『他国にいても、自国を思う気持ちは一緒なんだ』と思い、感動しました。イベント準備は少し大変でしたが、リーダーに聞きながら仕事を分担し、みんなでつくることができたので、素敵なイベントになったのだと思っています。そして、フィリピンの方々のあたたかさがとても身にしみました。このイベントが今後も続くことを祈っています。

グローバル・コミュニケーション学部
2年 松浦 実咲



福祉 トーチラン

連携先：公益社団法人スペシャルオリンピックス日本・愛知

心理学部に入学し、公認心理士を目指しています。様々なバックボーンや個性を持った人と会うことで人として成長し、夢を叶えたいという思いから今回のイベントに参加しました。知的障がいがある児童がトーチを持って元気に走れるよう、声掛けをしながら伴走しました。自分の声掛けで、大勢の人に見られて走る緊張を少しでも緩和できるよう努めました。今後もCCCを活用し、様々なことに挑戦していきたいです。

心理学部
1年
山口 侑真



まちづくり 一宮を若者の手で盛り上げよう!

連携先：一宮市福祉課、社会福祉法人コスモス福祉会 など



この企画はもともと「企画立案の基礎」で学がった「一宮に若者が少ない。若者に来てもらえるイベントを考えよう」という課題解決の策として始まった。履修後に企画で終わらず、実施に向けて準備をおこなってきた。当初の企画は企業との間の調整がうまくいかなかったため、内容を「一宮を若者の手で盛り上げよう!」に変更し、福祉施設の方々とイベントをおこなうことになった。実施までに1年半の時間がかかったが、やめずに続けてきたことや、学生が初めて尾張一宮駅で福祉イベントをすることができたことは今後のつながりを築く上で重要になっていくと考えている。

創造表現学部 3年 加藤 弘夢



青少年育成 学習支援活動

連携先：NPO法人ささしまサポートセンター、他

私は、大学生活の中で生活困窮世帯の学習支援活動に携わってきました。この活動では、ひとり親家庭や生活保護世帯などの生活困窮世帯の中学生や高校生を対象に、学習のサポートや居場所の提供をおこなっています。私は活動を始める前までは「子どもの貧困」について、単純にお金がなく、塾に通えないなどの表面的な問題のみをイメージしていました。しかし、実際に子どもと関わってみると、家に帰っても一人で過ごすことが多く、人との関わりが乏しい状態にある子どももいるなどの潜在的な問題があることを知り、貧困が生み出す問題について改めて考えさせられました。また、子どもたちの勉強やその他の活動に熱心に取り組む姿から私も多くのことを学ばせていただきました。

福祉貢献学部 4年 木下 新



(2) 学生団体などによる自主活動の支援

ボランティア活動への「参加」に留まらず、同じ社会問題に共感する学生たちが集まり、課題解決に向け、自主的に活動しています。

CCCを基盤に自主活動をおこなっている学生団体を「CCC学生団体」とする、登録制度を設けています。その数は現在、約30団体。そのほとんどが、学生のみではなく、地域の市民団体・福祉施設・企業などと連携して活動しています。

CCC学生団体にはスタッフがアドバイザーとして就き、活動の「伴走者」としてサポートします。



地域活動に向けてのミーティング

また、自分たちの体験を振り返るための自己点検報告書を共に作成し、支え合いながら活動を改善・継続できる仕組みを構築しています。

長久手市4大学連携事業

ながくて一家プロジェクト ～はじめてのおつかい～

2018年9月29日(土)、4大学連携事業「はじめてのおつかい」が具現化されました。企画・運営メンバーの学生たちは、イベント開催のためにミーティングと現地の下見を重ね、当日を迎えました。あいにくの雨の中でしたが、2チーム3人の子どもたちと学生14人が参加し、おつかいがスタートしました。長久手市文化の家を起点とし、NPO法人楽歩、長久手市図書

愛知淑徳大学企画

館、花の丘カウベル、デイサービスセンターやさしいところのご協力のもとイベントを開催することができました。イベント終了後には『のろし祭り@リニモテラス』での活動報告があり、現場での様子を改めて振り返る機会となりました。



私たちは今回「はじめてのおつかい」を実施しました。事前に子どもたちがおつかいする道を実際に歩き、危険なところはないか、子どもたちが歩くとのくらしい時間がかかるかを考え、おつかいのルートを考えました。本番では子どもたちを見送り、その後各おつかい場所で子どもたちを見守る役割をしました。この活動を通して、人と人とのつながりの素晴らしさを実感しました。子どもたち同士で協力し合ったり店員さんや地域の人に話しかけたりしておつかいをする姿に感動し

ました。色々なつながりがあって初めて「わづらわしいまち」ができ、つながるからこそ地域みんなで良いまちをつくっていくことができるということを学びました。

福祉貢献学部 3年
水野 綾子・宮澤 円来・村井 明日香・永野 桜子



地域 ∞ 学生 Change



私たちは子どもたちが楽しく外遊びやスポーツをおこなえる居場所づくりを目指し、小学校や児童館と連携して活動している団体です。年に2回ほど星ヶ丘小学校の子どもたちを対象にイベントを開催し、参加してくれた子どもから、「新しいお友達ができた!」という声を聞くことができました。

イベントに参加した子どもたちの声

「思い出ができて嬉しかった!」
「また(大学に)遊びに来たい!」

た。外遊びやスポーツは体力向上だけでなく、協調性やコミュニケーション能力など子どもたちが生きていく上で必要な力をたくさんつけてくれます。そして、私たち子どもたちが頑張る姿を見て一緒に成長することができました。これからも子どもたちの笑顔が広がるような活動を続けていきたいです。

ビジネス学部
3年 宇野 拓海



地域 ∞ 学生 りんく3



りんくさんの活動に参加して7年になります。学生さんに誘われなければ、児童館に入ることもありませんでした。今では、ここに来るために元気で頑張らなければと思います。白金地区の子ども数も昔に比べて本当に減りました。子どもたちは地域の宝です。次の会も子どもたちや学生さんに会えるのを楽しみにしています。

白金地区 村瀬 様の声

た。私たちの活動は、目的である「高齢者の方々子どもたちをつなげること」が目に見えて実感できるので、毎回とても達成感を味わうことができます。これからもみんなが楽しめる企画づくりに励んでいきます。

ビジネス学部 2年 安藤 千弘・岡田 尚暉・石川 美空



地域 ∞ 学生 ぽんてむ



私たちは藤が丘にある知的障がい者就労施設の藤森作業所にレクリエーションを企画し訪問しています。初めはみなさんの理解の程度がつかむことができず悩みました。しかし、訪問を重ねるうちに、「人と人」として接することができるようになり理解し合えていきました。その中で、どうしたら楽しんでもらえるかを一番に考え、工夫する楽しさも味わうことができました。そして、

連携先：NPO法人藤森福祉会 藤森作業所 村本 様の声

学生さんが施設の利用者と交流していただくことを利用者もその家族も本当に心待ちにしています。私たち職員と過ごす変化のない毎日に、学生さんの活動は光を与えてくれます。学生さんと交流することで利用者の新しい面を発見できたり、楽しそうな笑顔を見ることができて、職員の内私たちも元気をもらえます。これからもどうぞよろしくお願いします。

福祉を学ぶ私にとって講義だけでは得られない、今後に活かせる経験を得ることができました。この活動を通して、障がい者の方々とは接する時は身構えずに、お互いを知ろうとする気持ちで関わろうと思いました。

福祉貢献学部
3年 杉野 瑞





(3) 【学内助成事業】チャレンジファンド

CCCでは、学生による様々な自主活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。地域のニーズや思いに応える活動や、社会的に意義の高い活動に対して、愛知淑徳大学後援会の協力を得て、資金面での助成と活動サポートプログラムの提供をおこなっています。

2018年度は、「スタートアップ部門(助成額上限5万円)」、「一般部門(助成額上限



10万円)」の2部門において、公開プレゼンテーション及び学内の教員たちによる審査の結果、12団体が採択され、それぞれの活動を展開しました。

2018年度チャレンジファンド採択団体一覧

法人名省略

	団体名	活動内容	主な連携先
スタートアップ部門	いち彙	愛知県津島市の魅力を伝えることを目標に、現地と交流しながらイベントなどを企画・実施する	津島市観光協会、愛知県立津島北高等学校
	Step In 佐久島	愛知県西尾市の離島・佐久島の魅力を掘り起こし、島民と一緒にできる活性化策を考える	西尾市佐久島振興課
	長久手ストーリー伝承プロジェクト	長久手市民の地域への愛着を深めることを目的に、長久手市の歴史を知ってもらうイベントの企画・運営をおこなう	長久手市郷土史研究会
	魅農里	農作業や講座企画などを通して食のありがたみを伝える	みどりの里
	ユニこま Plus +	バリアフリーやユニバーサルデザインの理解を深め、障がいがある人の服のリメイクに取り組む	ユニクロ星が丘テラス店、えとせとら、ファクトリエ星が丘テラス店、瀬戸市立瀬戸特別支援学校
一般部門	アミーゴ	県内の外国人児童を対象に多読活動、学習支援、就学前指導に取り組む	シェイクハンズ、西尾市教育委員会
	ウィンドオーケストラ	被災地演奏会を通して復興支援の在り方を考え、東北の「今」について伝えていく	気仙沼市立気仙沼中学校吹奏楽部、宮城県気仙沼高等学校吹奏楽部
	共同料理なごやか	孤食などの食生活の改善や多世代に渡るつながりをつくる	三ヶ峯気会、サロンいこい、丁子田集会所
	コミュカフェ	住民の交流を深め、世代を越えて助け合える地域をつくる	名古屋市千種区社会福祉協議会、ケアハウスシーダーヒルズ
	Fsus4	高齢者施設や障がい者施設での演奏や交流を通して、相互に理解を深める	愛知たいようの杜、森孝しぜんかん
	Team みその	名古屋市伏見にある御園通商店街の活性化を目的とし、イベントの企画や運営をおこなう	御園通商店街振興組合
	チームわんわん	小学校での授業やワークショップを通じて介助犬の認知度・理解拡充を図る	日本介助犬協会

2018年度採択プロジェクトのうち、4団体の活動を報告します。

スタートアップ部門

長久手ストーリー伝承プロジェクト「歴史を通してつなげる」

今回私たちは長久手市在住の子どもたちに、「チェキと謎解き」を通して地域の歴史を学び、地元

ミーティングで動機を掘り下げることで、本当に笑顔にしたい人は誰なのかを追求し、目的にマッチした企画をつくることができました。その甲斐あって、イベントに参加してくれた子どもたちを笑顔にすることができました。



創造表現学部
3年 山中 隆寛

魅農里「AGRI START」

農業は、様々な問題を抱えています。そこに学生が介入することで、少しでも農業を元気にすることが

や農のありがたみを感じた」という声が、団体の代表として本当に嬉しかったです。これからも新しい形で農業と学生をつなげ、日本の農業を元気にしていきたいです。



ビジネス学部
4年 堀部 沙也加

ユニこまPlus+「僕らの気持ち～みんなと同じ服が着たいんだもん!!～」

私たちは「障がいのある人でも『着たい!』と思う服と着ることのできる環境の実現」を一つの目標として、服のリメイクにチャレンジしました。その背景には、私自身が当事者であり、「服のバリア」を理由にオシャレをすることができなかったことがあります。この活動では、リメイクのイメージを実際の形にする

難しさやご協力いただいている方々との連絡調整の難しさを感じながらも、企業を始め多くの方々の熱意に支えていただきながら、何とか2本のズボンを作製できました。今後も障がい者の方々に喜んでいただける

ような活動を続けていきたいと考えています。



福祉貢献学部
2年 唐田 宏樹



一般部門

ウィンドオーケストラ「吹奏楽で伝える東北の今」

私たちは東日本大震災の復興のための事業として、毎年現地を訪問し現地の中学生と演奏会をおこなっています。この活動を中心にCCCにはチャレンジファンドにてご支援いただきました。CCCスタッフのアドバイスから、今の東北の現状や私たちが見て感じた思いを発信することが

できることに気がきました。現地を訪問した自分たちだからこそできる活動はまだあるのかもしれない。時間が経つごとに風化が進む中、新たに活動に参加する団員や自分の周りの人など1人でも多くの人に、防災・減災の大切さと自分ができることを考えてほしいと思います。



ビジネス学部
3年 小玉 真由美

4 学生スタッフの活動

学生スタッフは、同じ学生という目線から、学生の持つ様々な思いを形にする重要な役割を担っています。

会話を通して、一人ひとりの個性を活かし、新たなチカラを共に発見するお手伝いをしています。

また、ボランティア紹介業務だけでなく自ら企画などもおこなっています。今年度は長久手市大学連携事業で企画提案をした「はじめてのおつかい」を具現化、学内では学生団体交流会の企画やゲストスピーカーを迎えた講座の実施など、活動の幅を広げています。



2018年度 学生スタッフ

長久手キャンパス

- 加藤 紗奈美 (福祉貢献学部4年)
- 加藤 沙也果 (メディアプロデュース学部4年)
- 鈴木 恵介 (メディアプロデュース学部4年)
- 長崎 里菜 (文学部4年)
- 和田 清花 (文学部4年)
- 上古代健太郎 (心理学部2年)
- 唐田 宏樹 (福祉貢献学部2年)
- 川口 紗奈 (創造表現学部2年)



星が丘キャンパス

- 伊藤 奈央人 (ビジネス学部4年)
- 桑山 千香子 (交流文化学部3年)
- 小林 知世 (交流文化学部3年)
- 青砥 祐太 (交流文化学部2年)
- 松浦 実咲 (グローバル・コミュニケーション学部2年)
- 水谷 麻美 (交流文化学部2年)



学生スタッフ企画 コミュ校

CCCで活動している学生団体の横のつながりをもっと深めていただこうと思い、小・中学校の授業形式に見立てた「コミュ校」を企画しました。学生団体のみんなにもCCCの歴史や経緯を知ってもらうため、スタッフによるCCCの特別講演をおこなったり、各団体の活動を知り合うワークショップや身体を使ったゲームなどをおこないました。団体同士での交流の幅が増え、普段知らなかった団体のことを知るきっかけにもなりました。



た。そして何よりも学生スタッフ一丸となって企画・運営し、成功できたことが良かったです。

ビジネス学部 4年
伊藤 奈央人



小坂町での活動

小坂町の特産品を使ってまちおこしをする企画の第一歩として、まずは小坂町について知りたいと思い、小坂町を訪れました。

初めに小坂振興事務所の方から、特産品である「えごま」についてのお話を伺いました。空気



に触れると酸化しやすい性質だということも教えてもらいました。その後、えごまの活用方法について考えました。また、食事や漬にも連れて行っていただき、自然の綺麗さや人のあたたかさを知ることができました。「また来てね」という言葉が心に残っています。小坂町の魅力をもっと知りたいし、伝える側にもなりたと思いました。私自身は卒業してしまいましたが、今後の企画を応援し、また小坂町に遊びに行きたいと思います。

文学部 4年
長崎 里菜



卒業する学生スタッフの言葉 /

思いやりの心を持つ、困っている人がいれば声をかける、助けようとする。当たり前のように当たり前にはできないことが自然とできる人をたくさん見てきました。そんな素敵な人たちに恵まれ、刺激を受けながら活動する中で、人を思いやりながら行動することの大切さを改めて感じました。そして、物ごとは人と人のつながりでできていて、そこには数字だけではない目に見えない本当の価値があるのだと気付くことができました。

メディアプロデュース学部 4年
鈴木 恵介



学生スタッフをする中で挑戦したことがたくさんあり、時にはうまくいかないこともありましたが、自分自身が体験したことは着実に蓄積されていき、今後の人生に良い意味で影響を及ぼさずだろうと思っています。だからこそ、在学生のみなさんにはボランティアやインターンシップなど勇気を持って一歩前に踏み出してほしいです。新たな景色を見ることが出来ますよ！私もこれからも挑戦し続けていきます。

ビジネス学部 4年
伊藤 奈央人





5 センター長より 2018年度 全体講評

コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長 大塚 英揮
(ビジネス学部 教授)

地域貢献、ボランティアを経験すると、若者たちは本当に大きく変わります。自ら考えて動きだせるチカラ、意思、それらを身に付け、彼らはオトナへの階段を駆け上がっていきます。

そしてそれ以上に変わるの表情です。イキイキとした輝く笑顔。そんな若者たちの成長に触れ、僕はCCCの利用者ももっともっと増えて欲しい、CCCだからこそできる素晴らしい体験にもっと多くの若者が参加してほしいと強く思うようになりました。間口を広げるための施策として、センター開講科目の魅力アップ、学生団体と外部団体のコラボレーションを促進するコラボメッセの開催、学生の活動を支援するチャレンジファンドをより利用しやすくするための制度改善などを実行し、授業履修者数の増加、チャレンジファンド参加団体数増加などの

一定の成果を上げることもできました。しかしその一方で、CCCの良さをボランティアに関心のない無関心層に伝えていくという最重要目標は依然として達成することができていないと感じています。2018年度末でセンター長の任期を満了、今後は森博子新センター長のもと、地域貢献、社会貢献のプラットフォーム機能を果たすべくCCCはさらなる成長を遂げていくことと思います。教員、事務スタッフ、学生スタッフ、参加学生みんながフラットで仲良しであったかい。この魅力あるCCCという家の賑わいがずっとずっと続いていくことを、そしてもっと大きな家に育ってくれることを心から願っています。最後になりますが、CCCの活動を支えてくださるみなさまに感謝の意をのべたいと思います。本当にありがとうございます。今後ともご指導、ご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。

6 新センター長より 就任の挨拶

コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長 森 博子
(人間情報学部 教授)



このたび、大塚英揮センター長の後任としてセンター長に就任いたしました。私は過去20年間企業研究所に勤務し、国内外の都市の交通対策や震災復興に携わってきました。また、6年前に本学に着任後は、ユニバーサルデザインを専門に教育を展開したり、本学周辺地域の都市・交通に関する委員などを務めたりしております。これらの経験を生かし職務に取り組んで

参ります。
CCCが設立されてから13年。CCCは単なるボランティア活動の場ではなく「教育組織」として位置付けられ、充実した学修と活動ができる環境が整っております。これもひとえに、みなさまのお力添えのおかげと、深く感謝しております。今後ともご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

7 初めてボランティアを募集される方へ

当センターでは、ボランティア募集情報の取り扱いについて、「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」を基本としています。

ボランティアを募集される場合は、まずはHPでご確認いただき、お電話でご連絡ください。

URL: <https://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/volunteer/01.html>

2018年度 CCC運営委員

- 委員長 大塚 英揮 (ビジネス学部)
- 星野 将直 (文学部)
- 村主 朋英 (人間情報学部)
- 高野 恵代 (心理学部)
- 村上 泰介 (創造表現学部)
- 加藤 友紀 (健康医療科学部)
- 中村 弘佳 (福祉貢献学部)
- ブイ チトルン (交流文化学部)
- 平田 亜紀 (グローバル・コミュニケーション学部)
- 高森 順子 (コミュニティ・コラボレーションセンター)
- 和田 恭治 (コミュニティ・コラボレーションセンター)

スタッフ

- 長久手キャンパス
- 青木 周子
- 内山 恵
- 沖 直子
- 中島 菜穂
- 蓮見 真紀子
- 箕浦 悦子
- 武藤 圭代
- 星が丘キャンパス
- 秋田 有加里
- 今井 里香
- 菅野 淑

